

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月2日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ニックター

コード番号 5367 URL <http://www.nikkato.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 西村 隆

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務部長

(氏名) 紀ノ岡 隆一郎

四半期報告書提出予定日 平成21年11月13日

配当支払開始予定日

TEL 072-238-3641

平成21年12月10日

(百万円未満四捨五入)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	2,656	—	27	—	85	—	27	—
21年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	2.22	—
21年3月期第2四半期	—	—

(注)当社は、平成21年3月期第3四半期より連結財務諸表の作成を始めたため、平成21年3月期第2四半期の数値および対前年同四半期増減率については記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	%	百万円	%	%	円 銭
22年3月期第2四半期	9,629	—	7,474	—	77.6	626.79
21年3月期	9,939	—	7,575	—	76.2	635.18

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 7,474百万円 21年3月期 7,575百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	10.00	—	10.00	20.00
22年3月期	—	5.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,600	△23.2	59	△88.3	150	△72.2	60	△51.3	5.03

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4.その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第2四半期 12,135,695株 21年3月期 12,135,695株

② 期末自己株式数 22年3月期第2四半期 210,778株 21年3月期 210,348株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第2四半期 11,925,013株 21年3月期第2四半期 一株

(注)当社は、平成21年3月期第3四半期より連結財務諸表の作成を始めたため、平成21年3月期第2四半期の期中平均株式数(四半期連結累計期間)については記載しておりません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1)当社は、平成21年3月期第3四半期より連結財務諸表の作成を始めたため、平成21年3月期第2四半期の数値および対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2)本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定および業績予想のご利用にあたっての注意事項は4ページ【定性的情報・財務諸表等】3.連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、一昨年夏に発生いたしました「サブプライムローン問題」に、昨年9月のいわゆる「リーマンショック」が追い打ちをかける格好で、「百年に一度」とまで言われます世界同時不況の影響をまともに受け、ようやく最悪期は脱したものの、失業率の上昇に歯止めがかからず、再度の悪化の懸念も囁かれており、低迷の中で先行き不透明な状態が続いております。

このような状況のもとで、当社グループは経費の削減は勿論のこと、売上高の減少に対応すべく種々の施策を実施いたしました。この効果も極めて限定的で前年同期と比べ、大幅な減収、減益となりました。

この結果、前年度は第2四半期までは単独での決算でしたので、単純には比較できませんが、売上高は2,655,931千円と前年度の単独決算に比べましても、30%を超える大幅な減収となりました。

事業別では、セラミックス事業は1,918,730千円と、一部の二次電池の正極材料の熱処理容器等は好調に推移いたしました。主力の粉碎用ボールや耐熱チューブ類が不振で耐摩耗セラミックスと耐熱セラミックスが共に前年同期比で30%超の減収となり、機能性セラミックスは同50%超、景気の影響を一番受けにくい理化学用陶磁器その他も同30%弱の減収となりました。この事業の市場別売上高構成比率は、電子部品・半導体向けは57.0%、化学・窯業・鉄鋼向けは17.3%、環境・エネルギー向けは5.7%となりました。

エンジニアリング事業につきましては、今期は特に企業の設備投資が大幅に落ち込んでいる影響をまともに受け、売上高は737,201千円とこれも前年とは単純には比較できませんものの、こちらも30%以上の落ち込みとなりました。品種別では加熱装置は264,114千円、計測機器その他は473,087千円で、共に30%前後前年同期を下回りました。市場別売上構成比率では、電子部品・半導体向けが38.8%、環境・エネルギー向け33.1%、自動車・重機向け11.0%と続きました。

損益面につきましては、売上高が期初予想を大きく下回りましたが、この第2四半期累計期間までは殆ど利益を見込んでいなかったこともあり、当初の予想利益は確保できました。しかしながら、これも前年の第2四半期までは単独決算のため、単純には比較できませんものの、営業利益は27,204千円、経常利益は85,323千円と、なんとか黒字は確保いたしましたものの、極めて厳しい結果となりました。また、税金等調整前四半期純利益は60,225千円、四半期純利益26,510千円と、これも同様の結果となっております。

(注) 当社は、平成21年3月期第3四半期より連結決算を開始しました。したがって、前第2四半期連結累計期間の記載は行っておりません。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

① 当第2四半期連結累計期間末の資産、負債、純資産の状況

総資産は、設備投資の進行に伴い固定資産は増加したものの、大幅な減収に伴う売掛金や受取手形等の売掛債権を中心に流動資産が大きく減少し9,629,451千円となりました。

負債も流動資産同様減収に伴う買掛金や未払金等の流動負債が大幅に減少し2,155,088千円となりました。

純資産は、別途積立金の取崩や保有株式の株価下落に伴う株式等評価差額金のマイナスの増加により7,474,363千円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は1,714,584千円となりました。

当第2四半期連結累計期間末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、大幅な減収に伴う売上債権の減少と法人税等の還付による未収入金の減少で710,690千円のプラスとなりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に東山工場における建屋建設や大型設備機械投資に伴う有形固定資産の取得で585,990千円のマイナスとなりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いや長期借入金の返済を長期借入金200,000千円の調達で賄いましたものの、3,715千円のマイナスとなりました。

(注) 当社は、平成21年3月期第3四半期より連結決算を開始しました。したがって、前第2四半期連結累計期間の記載は行っておりません。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、前述いたしましたように景気は多少は回復してまいりましたが、その基調は極めて緩やかで、先行きも不透明であり、これが本格的なものとなるには、まだまだ時間を要するものと考えます。また、今夏に導入いたしました大型成型機等の減価償却費が発生いたしますこともあり、費用面からも利益の圧迫要素があり、予断を許さない状況が続くものと予想されます。

このような状況ではございますが、当社グループは将来の需要に備えるため設備投資や合理化には、積極的にこれを押し進める所存でございます。

通期の連結業績見通しにつきましては、以上のことから売上高56億円（前期比23.2%減収）、経常利益1億5千万円（前期比72.2%減益）、当期純利益6千万円（前期比51.3%減益）を予定しております。

配当金につきましては、第2四半期末の配当は1株当たり5円とし、期末配当につきましても1株当たり5円とさせていただきます。

(注) 本資料に記載している業績予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により予想数値と異なる可能性があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,854,066	1,733,105
受取手形及び売掛金	1,824,355	2,054,033
有価証券	30,517	30,494
商品及び製品	549,996	604,901
仕掛品	624,875	581,031
原材料及び貯蔵品	176,276	194,242
その他	123,814	388,030
貸倒引当金	△3,438	△3,400
流動資産合計	5,180,464	5,582,438
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,772,251	1,235,029
機械及び装置(純額)	1,096,376	945,347
その他(純額)	466,848	1,032,987
有形固定資産合計	3,335,476	3,213,364
無形固定資産	25,968	28,382
投資その他の資産		
その他	1,122,060	1,148,920
貸倒引当金	△34,518	△34,518
投資その他の資産合計	1,087,541	1,114,401
固定資産合計	4,448,986	4,356,149
資産合計	9,629,451	9,938,587
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	706,546	720,960
短期借入金	402,000	402,000
1年内返済予定の長期借入金	168,588	117,352
未払金	281,212	546,651
賞与引当金	147,500	166,000
役員賞与引当金	11,055	22,110
その他	43,472	16,372
流動負債合計	1,760,374	1,991,446
固定負債		
長期借入金	208,268	144,014
退職給付引当金	21,448	33,044
役員退職慰労引当金	96,981	127,312
その他	68,016	68,016
固定負債合計	394,713	372,387
負債合計	2,155,088	2,363,833
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,320,740	1,320,740
資本剰余金	1,221,859	1,221,859
利益剰余金	5,144,283	5,237,026
自己株式	△91,488	△91,296
株主資本合計	7,595,394	7,688,330
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△121,031	△113,576
評価・換算差額等合計	△121,031	△113,576
純資産合計	7,474,363	7,574,753
負債純資産合計	9,629,451	9,938,587

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	2,655,931
売上原価	2,099,488
売上総利益	556,443
販売費及び一般管理費	529,238
営業利益	27,204
営業外収益	
受取利息	2,201
受取配当金	10,362
助成金収入	31,754
その他	23,372
営業外収益合計	67,691
営業外費用	
支払利息	6,777
その他	2,795
営業外費用合計	9,573
経常利益	85,323
特別利益	
貸倒引当金戻入額	62
特別利益合計	62
特別損失	
固定資産廃棄損	926
設備移転費用	24,234
特別損失合計	25,160
税金等調整前四半期純利益	60,225
法人税、住民税及び事業税	27,600
法人税等還付税額	△2,225
法人税等調整額	8,340
法人税等合計	33,714
四半期純利益	26,510

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	60,225
減価償却費	223,577
貸倒引当金の増減額(△は減少)	38
受取利息及び受取配当金	△12,563
支払利息	6,777
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△11,595
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△30,331
固定資産廃棄損	926
売上債権の増減額(△は増加)	232,424
たな卸資産の増減額(△は増加)	29,026
その他の資産の増減額(△は増加)	308,567
仕入債務の増減額(△は減少)	△17,160
未払消費税等の増減額(△は減少)	△38,824
その他の負債の増減額(△は減少)	△45,456
小計	705,629
利息及び配当金の受取額	13,130
利息の支払額	△7,893
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△175
営業活動によるキャッシュ・フロー	710,690
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△584,107
無形固定資産の取得による支出	△6,087
投資有価証券の取得による支出	△849
貸付金の回収による収入	1,865
投資その他の資産の増減額(△は増加)	3,188
投資活動によるキャッシュ・フロー	△585,990
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入れによる収入	200,000
長期借入金の返済による支出	△84,510
自己株式の取得による支出	△192
配当金の支払額	△119,013
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,715
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	120,984
現金及び現金同等物の期首残高	1,593,599
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,714,584

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

当社グループでは、内部管理上の区分によりセラミックス事業とエンジニアリング事業にわけております。

当社グループは、平成20年10月に関東電子計測株式会社を買収し、連結決算に移行したこと及び事業毎の損益を正確に把握できる体制が整備されたことから、当連結累計期間より経営の多角化の実態について有用な情報を提供するためにセグメント情報を開示することといたしました。

したがって、前第2四半期連結累計期間の記載は行っておりません。

【事業の種類別セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	セラミックス 事業 (千円)	エンジニア リング事業 (千円)	計(千円)	消去又は 全社 (千円)	連結(千円)
I 売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	1,918,730	737,201	2,655,931	—	2,655,931
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,918,730	737,201	2,655,931	—	2,655,931
営業利益又は 営業損失(△)	46,474	△19,269	27,204	—	27,204

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分の主な製品

(1) セラミックス事業……粉砕用ボールおよび部材、熱処理用容器・道具材、酸素センサ等

(2) エンジニアリング事業…各種電気炉、熱処理装置、応力測定機器、計測制御装置等

【所在地別セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

在外子会社及び重要な在外支店がないため、記載を省略しております。

【海外売上高】

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6. その他の情報

売上高・受注高・受注残高
(売上高)

事業の種類別セグメント	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	
	金額 (千円)	構成比 (%)
セラミックス事業	1,918,730	72.2
エンジニアリング事業	737,201	27.8
合 計	2,655,931	100.0

(受注高)

事業の種類別セグメント	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	
	金額 (千円)	構成比 (%)
セラミックス事業	1,966,668	74.0
エンジニアリング事業	691,873	26.0
合 計	2,658,542	100.0

(受注残高)

事業の種類別セグメント	当第2四半期連結累計期間末 (平成21年9月30日)	
	金額 (千円)	構成比 (%)
セラミックス事業	1,014,675	86.2
エンジニアリング事業	162,280	13.8
合 計	1,176,955	100.0

- (注) 1 当社は、平成21年3月期第3四半期より連結財務諸表の作成を始めたため、前第2四半期連結累計期間における「売上高・受注高・受注残高」については記載しておりません。
- 2 金額は、販売価格によっております。
- 3 上記の金額には消費税等は含まれておりません。